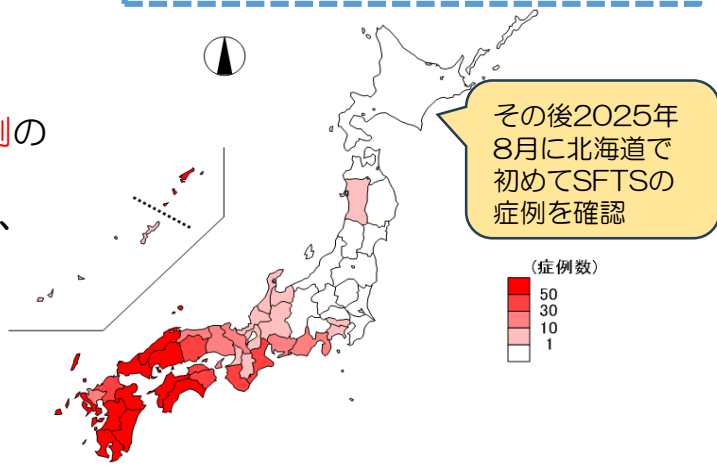


全国では、マダニが媒介する感染症である重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の報告が増えています。

OSFTSウイルスによる感染症です。
発熱や消化器症状などを呈し、
重症例では出血傾向や意識障害を
伴うことがあります。

図 SFTS届出症例の届出地域
n=1,185、2025年7月31日現在
出典：国立健康危機管理研究機構
感染症情報提供サイト

○日本では、2013年3月4日以降
2025年7月31日までに1,185症例の
報告があり、男女比は1：1です。
近年は年間100例以上の報告があり、
高齢者に多い傾向です。



○予防 マダニに刺されないことが重要です。

山や川でアウトドアを楽しむ際や農作業では、長袖、長ズボン等の肌の露出を控えた衣服を着用し、ダニよけスプレーを使用する等マダニに刺されない対策を心がけましょう。

また、感染した犬や猫等のペットの唾液から感染した事例もありますので、注意しましょう。

全国、福島県で腸管出血性大腸菌感染症が増加傾向
県南地域では令和7年8月26日までに腸管出血性大腸菌感染症が
4件発生し、すでに令和6年の発生数3件を超えました。

発生時期は夏季に多いですが、通年で発生しています。
病原体に感染すると2～9日ほどの潜伏期間があります。

○予防のポイント

食べ物の取り扱いと正しい手指衛生です。

腸管出血性大腸菌は75℃で1分以上の加熱で死滅します。

汚染食品からの感染が主体なので、食品を十分に加熱しましょう。

ヒトからヒトへの二次感染を予防するために、食事前、トイレ使用后、排泄介助作業の後などに石けんと流水による手洗いを行うことが必要です。

